

資料編

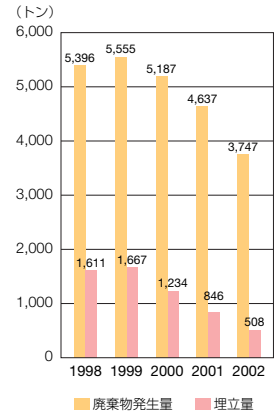
サイト情報	31
平塚製造所	32
三重工場	33
三島工場	33
新城工場	34
尾道工場	34
茨城工場	35
ヨコハマタイヤ・フィリピン	35
横浜ハイデックス	36
本社	36
環境保全活動の歩み	37

平塚製造所



平塚製造所(左)とハマタイト工場

廃棄物発生量と埋立量



生産品目: 航空機用タイヤ、ベルト、ゴムライニング製品、防舷材、止水製品、
その他工業品、航空機用部品、スポーツ用品、建築用:自動車用
シーリング材

敷地面積: 337,911m²

従業員数: 1,658人

〒254-8601 神奈川県平塚市追分2番1号

TEL: 0463 (35) 9505

※平塚製造所はハマタイト工場(平塚市四之宮)を含んだ総称です。

大気関係測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
平塚製造所ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	80	60.8	70	51
	ばいじん量(g/h)	371	5.2	7.5	3.5
平塚製造所 コーゼネレーション	窒素酸化物濃度(ppm)	20	14	16	12
	ばいじん量(g/h)	2176	191	370	76
ハマタイト工場 ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	80	35	37	33
	ばいじん量(g/h)	502	2.2	2.5	1.8

法律名称等:大気汚染防止法、神奈川県条例

焼却炉施設廃止状況

ハマタイト工場 廃プラ焼却炉	2002年11月廃止
ハマタイト工場 紙焼却炉	2002年11月廃止

PRTR対象物質(単位:トン/年 ただしダイオキシン類はmg-TEQ/年)

平塚製造所(除ハマタイト工場)

物質名	取扱量	大気 排出量	公共用 水域 排出量	土壌 排出量	自己 埋立 処分量	廃棄物 移動量	公共 下水道 移動量	処理 施設 移動量
N-シクロヘキシル-2-ベンゾ チアゾールスルフェンアミド	107.8	0	0	0	0	1.4	0	0
N-(tert-ブチル)-2-ベンゾ チアゾールスルフェンアミド	79.0	0	0	0	0	1.1	0	0
アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	73.3	0	0	0	0	3.0	0	0
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	69.4	0	0	0	0	2.9	0	0
トルエン	32.1	16.7	0	0	0	0.68	0	0
ビスフェノールA	31.5	0	0	0	0	3.0	0	0
HCFC-141b	31.0	28.3	0	0	0	1.3	0	0
エチレンジクロールモノ メチルエーテル	13.6	9.9	0	0	0	3.7	0	0
キシレン	12.6	4.2	0	0	0	0.02	0	0
アンチモン及びその化合物	9.2	0	0	0	0	0.42	0	0
鉛及びその化合物	7.8	0	0	0	0	0.48	0	0
トリクロロエチレン	6.6	4.2	0	0	0	2.4	0	0
コバルト及びその化合物	5.9	0	0	0	0	0.15	0	0
フタル酸ジ-n-ブチル	5.6	0	0	0	0	0.066	0	0
チウラム	5.0	0	0	0	0	0.21	0	0
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	3.3	0	0	0	0	0.39	0	0
ベンゼン*	2.0	0.0037	0	0	0	0	0	0
エチルベンゼン	1.8	0.21	0	0	0	0	0	0
ホルムアルデヒド	1.8	0	0	0	0	0.074	0	0
ヘキサメチレンテトラミン	1.2	0	0	0	0	0.048	0	0

※ 取扱量0.5トン/年以上

水質関係測定データ(主要排水)

排水口名	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
平塚製造所	PH	5.7~8.7	7.6	8.2	6.7
	BOD濃度(mg/l)	300	37.3	94.0	6.0
	SS濃度(mg/l)	300	30.1	92.0	5.0
	油分濃度(mg/l)	30	4.1	14.0	1未満
ハマタイト工場	PH	5.7~8.7	7.9	8.5	6.9
	BOD濃度(mg/l)	300	40.8	85.0	6.0
	SS濃度(mg/l)	300	41.5	110.0	16.0
	油分濃度(mg/l)	30	1.6	3.0	1未満

法律名称等:平塚市下水道条例

ハマタイト工場

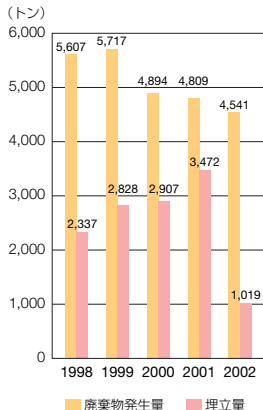
物質名	取扱量	大気 排出量	公共用 水域 排出量	土壌 排出量	自己 埋立 処分量	廃棄物 移動量	公共 下水道 移動量	処理 施設 移動量
フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)	708.8	0	0	0	0	3.63	0	0
m-トリレンジイソシアネート	305.5	0	0	0	0	0	0	0
フタル酸n-ブチル=ベンジル	277.8	0	0	0	0	0.14	0	0
トルエン	158.7	1.93	0	0	0	14.76	0	0
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	140.2	0	0	0	0	1.54	0	0
3,3'-ジクロロ-4,4'- ジアミノジフェニルメタン	57.8	0	0	0	0	0	0	0
キシレン	55.4	0.11	0	0	0	0.44	0	0
マンガン及びその化合物	36.6	0	0	0	0	0.33	0	0
エチルベンゼン	22.0	0.044	0	0	0	0.18	0	0
アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)	18.9	0	0	0	0	0.04	0	0
フェノール	18.5	0	0	0	0	0.15	0	0
有機スズ化合物	17.3	0	0	0	0	0.04	0	0
クロロベンゼン	14.5	0.002	0	0	0	0.01	0	0
1,3,5-トリメチルベンゼン	7.2	0.014	0	0	0	0	0	0
鉛及びその化合物	6.1	0	0	0	0	0	0	0
ヘキサメチレン =ジイソシアネート	5.0	0	0	0	0	0	0	0
チウラム	4.4	0	0	0	0	0.04	0	0
直鎖アルキルベンゼンスル ホン酸及びその塩	1.4	0	0	0	0	0.003	0	0
1,2-ジクロロエタン	1.0	0	0	0	0	0.01	0	0
ダイオキシン類	-	6.09	0	0	0	0.01	0	0

三重工場



生産品目: トラック・バス用、乗用車用、
小型トラック用、産業車両用
タイヤ
敷地面積: 268,694m²
従業員数: 907人
〒516-8530
三重県度会郡御園村高向1038番地
TEL: 0596 (28) 3151

廃棄物発生量と埋立量



大気関係測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
ボイラー	硫酸酸化物排出量 (Nm ³ /h)	12.3	0.477	0.7312	0.039
	窒素酸化物濃度 (ppm)	180	151	160	140
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.1	0.004	0.022	0.001未満
焼却炉	硫酸酸化物排出量 (Nm ³ /h)	6.2	2.766	4.539	1.602
	窒素酸化物濃度 (ppm)	300	71	80	54
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.3	0.018	0.066	0.001未満

法律名称等: 大気汚染防止法、御園村・伊勢市公害防止協定

水質関係測定データ(主要排水)

排水口名	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
No. 1 排水	PH	6.0~8.0	7.2	7.9	6.8
	BOD濃度 (mg/l)	20	2.0	3.1	0.8
	COD濃度 (mg/l)	20	2.1	3.6	1.0
	SS濃度 (mg/l)	40	1.0	3.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	2	1未満	1未満	1未満
No. 2 排水	PH	6.0~8.0	7.2	7.8	6.8
	BOD濃度 (mg/l)	20	0.8	1.5	0.5未満
	COD濃度 (mg/l)	20	1.9	3.2	1.0
	SS濃度 (mg/l)	40	2.7	9.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	2	1未満	1.1	1未満

法律名称等: 御園村・伊勢市公害防止協定

ダイオキシン測定データ

施設名称	項目	規制値	2002年度実績
焼却炉	排ガス (ng-TEQ/m ³ N)	10	0.0093
	排水 (pg-TEQ/L)	10	0.010
	焼却残渣 (ng-TEQ/g)	3	0.0000005
	飛灰 (ng-TEQ/g)	3	0.040

法律名称等: ダイオキシン類対策特別措置法

PRTR対象物質 (単位: トン/年 ただしダイオキシン類はmg-TEQ/年)

物質名	取扱量	大気排出量	公共用水域排出量	土壌排出量	自己埋立処分量	廃棄物移動量	公共下水道移動量	処理施設移動量
N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	491.0	0	0	0	0	1.2	0	0
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	119.5	0	0	0	0	0.43	0	0
トルエン	60.2	46.6	0	0	0	0	0	0
コバルト及びその化合物	26.5	0	0	0	0	0.12	0	0
キシレン	13.7	2.7	0	0	0	0	0	0
ホルムアルデヒド	11.0	0	0	0	0	0	0	0
エチルベンゼン	2.3	0.14	0	0	0	0	0	0
ベンゼン*	2.0	0.62	0	0	0	0	0	0
ダイオキシン類	-	8.4	0.000098	0	0	2.6	0	0

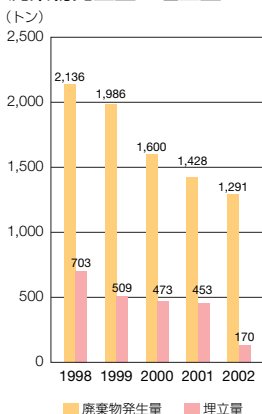
* 取扱量 0.5トン/年以上

三島工場



生産品目: 乗用車用、レース用、
小型トラック用タイヤ
敷地面積: 112,375m²
従業員数: 546人
〒411-0832
静岡県三島市南二日町8番1号
TEL: 0559 (75) 0800

廃棄物発生量と埋立量



大気関係測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
ボイラー	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	36	37	35
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.1	0.001未満	0.001未満	0.001未満

法律名称等: 大気汚染防止法、三島市指導値

水質関係測定データ(主要排水)

排水口名	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
工場排水	PH	5.8~8.6	7.8	8.2	6.6
	BOD濃度 (mg/l)	20	8.1	17.9	2.8
	COD濃度 (mg/l)	120*	2.6	3.0	2.5
	SS濃度 (mg/l)	50	2.2	3.6	1未満
	油分濃度 (mg/l)	5	1未満	1未満	1未満

法律名称等: 静岡県条例、※ 水質汚濁防止法

焼却炉施設廃止状況

三島工場 焼却炉	2001年12月1日廃止
----------	--------------

PRTR対象物質 (単位: トン/年)

物質名	取扱量	大気排出量	公共用水域排出量	土壌排出量	自己埋立処分量	廃棄物移動量	公共下水道移動量	処理施設移動量
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	202.5	0	0	0	0	0.76	0	0
N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	120.7	0	0	0	0	0.45	0	0
トルエン	38.8	38.8	0	0	0	0	0	0
ヘキサメチレンテトラミン	26.4	0	0	0	0	0.10	0	0
フェノール	12.6	0	0	0	0	0.05	0	0
キシレン	3.7	3.7	0	0	0	0	0	0
ベンゼン*	0.73	0.73	0	0	0	0	0	0

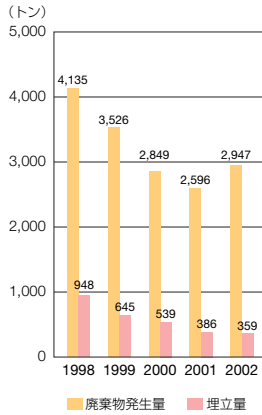
* 取扱量 0.5トン/年以上

新城工場



生産品目: 乗用車用、
小型トラック用タイヤ
敷地面積: 217,935m²
従業員数: 738人
〒441-1343
愛知県新城市野田字古屋敷1番地
TEL: 05362 (2) 2251

廃棄物発生量と埋立量



水質関係測定データ(主要排水)

排水口名	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
No.1排水	PH	5.8~8.6	7.3	7.6	7.1
	BOD濃度 (mg/l)	25	2.2	5.4	0.5未満
	COD濃度 (mg/l)	25	2.8	4.0	1.8
	SS濃度 (mg/l)	30	2.3	11.0	1.0
	油分濃度 (mg/l)	5	0.5未満	1.1	0.5未満
No.2排水	PH	5.8~8.6	7.5	7.6	7.2
	BOD濃度 (mg/l)	25	1.6	4.7	0.7
	COD濃度 (mg/l)	25	2.5	3.1	1.8
	SS濃度 (mg/l)	30	1.6	14.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	5	0.5未満	0.9	0.5未満

法律名称等:愛知県条例、公害防止協定

大気関係測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
1号ボイラー	硫黄酸化物排出量 (Nm ³ /h)	8.2	3.85	4.45	3.09
	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	128	140	110
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.2	0.038	0.049	0.032
2号ボイラー	硫黄酸化物排出量 (Nm ³ /h)	7.38	3.47	4.1	2.87
	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	132	140	120
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.2	0.023	0.029	0.018

法律名称等:大気汚染防止法、愛知県条例

PRTR対象物質 (単位:トン/年)

物質名	取扱量	大気排出量	公共用水域排出量	土壌排出量	自己埋立処分量	廃棄物移動量	公共下水道移動量	処理施設移動量
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	469.6	0	0	0	0	1.7	0	0
N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	177.1	0	0	0	0	0.38	0	0
トルエン	43.1	43.1	0	0	0	0	0	0
ヘキサメチレンテトラミン	36.5	0	0	0	0	0.11	0	0
コバルト及びその化合物	18.6	0	0	0	0	0.12	0	0
フェノール	16.1	0	0	0	0	0.23	0	0
ホルムアルデヒド	9.7	0	0	0	0	0	0	0
キシレン	3.9	3.9	0	0	0	0	0	0
ベンゼン*	0.72	0.72	0	0	0	0	0	0

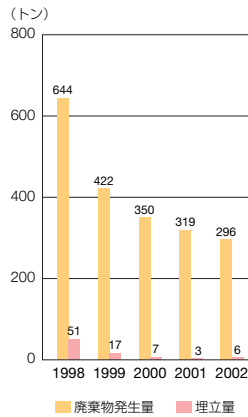
*取扱量 0.5トン/年以上

尾道工場



生産品目: 建設車両用タイヤ
敷地面積: 204,002m²
従業員数: 184人
〒722-0051
広島県尾道市東尾道20番地
TEL: 0848 (46) 4580

廃棄物発生量と埋立量



水質関係測定データ(主要排水)

排水口名	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
工場排水	PH	5.0~9.0	8.1	8.2	8.0
	BOD濃度 (mg/l)	600	125	140	110
	SS濃度 (mg/l)	600	39	48	30
	油分濃度 (mg/l)	30	13.5	18	9.0

法規制対象外(自主管理測定)
規制値は尾道市下水道条例

焼却炉施設廃止状況

尾道工場 焼却炉	2002年9月廃止
----------	-----------

PRTR対象物質 (単位:トン/年 ただしダイオキシン類はmg-TEQ/年)

物質名	取扱量	大気排出量	公共用水域排出量	土壌排出量	自己埋立処分量	廃棄物移動量	公共下水道移動量	処理施設移動量
N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	51.9	0	0	0	0	0.039	0	0
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	48.9	0	0	0	0	0.044	0	0
トルエン	6.5	5.7	0	0	0	0	0	0
ダイオキシン類	-	44.7	0	0	0	0.025	0	0

大気関係測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
ボイラー	硫黄酸化物排出量 (Nm ³ /h)	5.0	0.09	0.14	0.055
	窒素酸化物濃度 (ppm)	200	79	83	74
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.1	0.0025	0.0026	0.0023

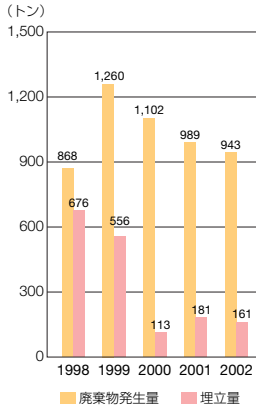
法律名称等:大気汚染防止法、広島県・尾道市公害防止協定

茨城工場



生産品目: 高圧ホース、シーリング材
敷地面積: 152,363m²
従業員数: 204人
〒319-0198
茨城県東茨城郡美野里町羽鳥西1番地
TEL: 0299 (46) 1111

廃棄物発生量と埋立量



水質関係測定データ(主要排水)

排水口名	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
工場排水	PH	5.8~8.6	7.6	8.4	7.0
	BOD濃度 (mg/l)	10	2.1	7.1	1未満
	COD濃度 (mg/l)	20	3.5	9.0	1未満
	SS濃度 (mg/l)	30	2.7	8.4	1未満
	油分濃度 (mg/l)	3	0.5未満	0.7	0.5未満

法律名称等: 茨城県条例、美野里町公害防止協定

焼却炉施設廃止状況

茨城工場 焼却炉	1999年7月廃止
----------	-----------

大気関連測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
ポイラー	硫黄酸化物(K値)	10	0.1	0.12	0.08
	窒素酸化物濃度 (ppm)	250	50	55	45
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.2	0.004未満	0.004未満	0.004未満

法律名称等: 大気汚染防止法、美野里町公害防止協定

PRTR対象物質 (単位:トン/年)

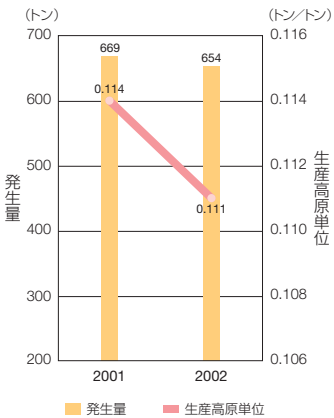
物質名	取扱量	大気排出量	公共用水域排出量	土壌排出量	自己埋立処分量	廃棄物移動量	公共下水道移動量	処理施設移動量
ヘキサメチレン=ジイソシアネート	32.3	0	0	0	0	0	0	0
トルエン	21.7	0.28	0	0	0	0.34	0	0
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	18.9	0	0	0	0	0.68	0	0
キシレン	8.4	0.018	0	0	0	0.15	0	0

ヨコハマタイヤ・フィリピン

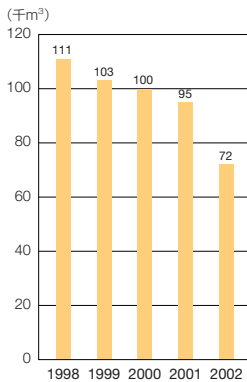


生産品目: 乗用車用タイヤ
敷地面積: 165,000m²
従業員数: 570人
I.E.5,
Clark Special Economic Zone,
Clark Field, Pampanga,
Philippines
TEL: 63-45-599-3603~9

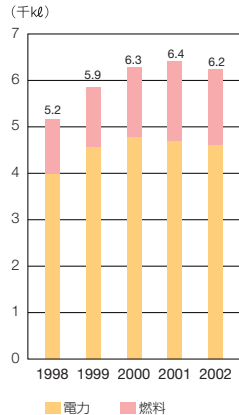
廃棄物発生量と生産高原単位



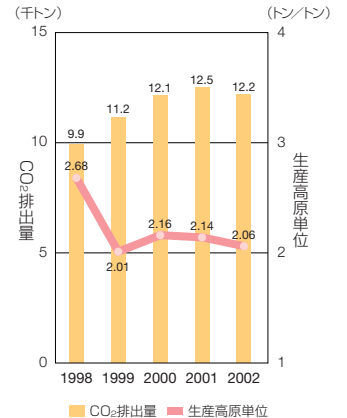
水使用量



エネルギー使用量 (原油換算)



CO₂排出量と生産高原単位





生産品目: 空調機器用カップリング、
油圧ホース金具、
油圧ホースアッセンブリー

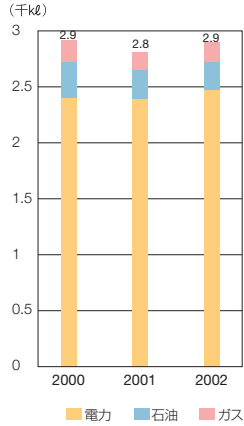
平塚事業所
敷地面積: 16,026m²
従業員数: 247人
〒254-0016
神奈川県平塚市東八幡4丁目6番40号
TEL: 0463 (23) 0331

長野工場
敷地面積: 22,275m²
従業員数: 125人
〒399-3102
長野県下伊那郡高森町吉田548番地
TEL: 0265 (35) 3211

PRTR対象物質

5トン以上の対象物質はありません。

エネルギー使用量 (原油換算) 水質関係測定データ (主要排水)



排水口名	項目	規制値	2002年度実績		
			平均	最大	最少
平塚事業所	PH	5.7~8.7	8.3	8.6	8.0
	BOD濃度 (mg/l)	300	41.8	77.0	12.0
	SS濃度 (mg/l)	300	17.4	39.0	7.1
	油分濃度 (mg/l)	5	2.3	4.5	1.3
長野工場*	PH	5.8~8.6	6.55	6.6	6.5
	BOD濃度 (mg/l)	160	8.4	11.0	5.8
	COD濃度 (mg/l)	160	14.0	17.0	11.0
	SS濃度 (mg/l)	200	13.0	16.0	10.0
	油分濃度 (mg/l)	30	4.8	-	-

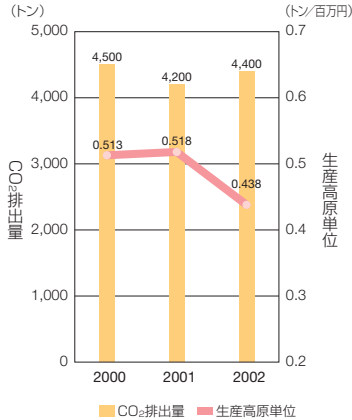
法律名称等: 平塚市下水道条例 ※ 法規制対象外 (自主管理測定)、規制値は長野県条例

水使用量とBOD、COD排出量

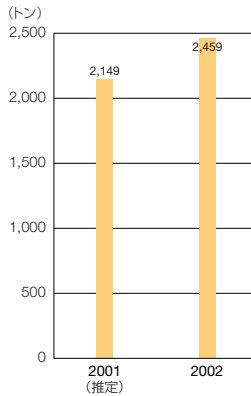
水使用量 (千m ³)	36
BOD* (トン)	0.07
COD (トン)	0.12

※ 下水道へ直接排水している事業所は対象外

CO₂排出量と生産高原単位

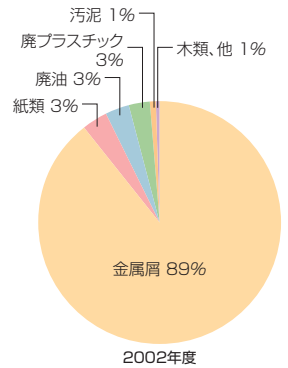


廃棄物発生量



2001年度は、ISO14001導入に伴い、廃棄物発生量管理を2001年7月より実施したため、年間量は推定値。

廃棄物種類別発生量



本社

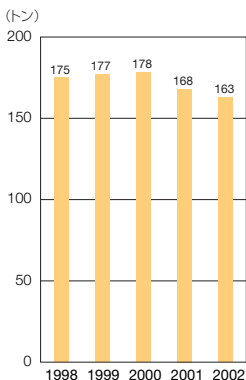


〒105-8685
東京都港区新橋5-36-11
TEL: 03 (5400) 4531
従業員数: 454人

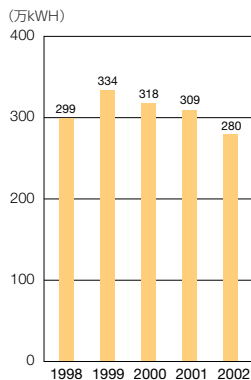
本社での環境保全活動

本社では省エネルギー活動、廃棄物削減活動に積極的に取り組んだ結果、ここ数年間で廃棄物発生量及び水、電力の使用量を削減することができました。昨年度の実績は、コピー用紙の再生紙利用100%の維持、トナーカートリッジの75%以上を再生品に切り換え、事務用品グリーン購入実績66%達成(本社 目標値65%)などです。今後さらに廃棄物の徹底した分別を行い、リサイクルを推進していく計画です。

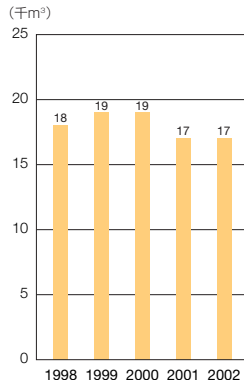
廃棄物発生量



電力使用量



水使用量



- 1971 公害防止を目的として全社組織の環境改善部を創設
- 1972 省エネルギーを推進するための会議体を設置
- 1974 生産工場への排煙脱硫装置の設置を開始
無排水の生産工場が完成(尾道工場)
排水処理設備を有する産業廃棄物最終処分場が完成(平塚製造所)
- 1975 天然ゴム臭を処理するボイラー脱臭装置が完成(平塚製造所)
表面処理排水処理装置が完成(平塚製造所)
「公害の手引き」を発行
- 1976 環境改善部の組織・名称を「環境管理室」に変更
廃タイヤ利用のリサイクル実証プラント設置(平塚製造所)
地盤沈下防止のため水循環再利用装置を設置(平塚製造所)
窒素酸化物低減のため低NOxバーナーを設置(平塚製造所)
- 1992 「環境管理室」を発展・強化させ名称を「環境保護推進室」に変更
環境に配慮した廃熱利用式大型タイヤ焼却炉が完成(三重工場)
- 1993 平塚製造所、ボイラー燃料を重油から都市ガスへ転換(第1期)
「環境行動計画」策定。行動目標としてオゾン層保護、地球温暖化対策、産業廃棄物削減、製品再資源化を掲げる
- 1994 平塚製造所、ボイラー燃料を重油から都市ガスへ転換(第2期)
天然ゴムの梱包材を木製から鉄製枠の通い便方式に変更を開始
平塚製造所、特定フロンを代替フロンへ転換完了
- 1995 「環境の手引き」発行。環境保護の意味、内外の動きなどを紹介
ポリエチレンシートリサイクルで、95年度「リサイクル推進協議会会長賞」受賞
- 1996 平塚製造所「1,1,1-トリクロロエタン」の使用を廃止
三重工場96年度「リサイクル推進協議会会長賞」受賞
平塚製造所「かながわ地球環境賞」受賞。用済みタイヤ再利用が評価される
- 1997 三重工場に大型脱臭装置を導入(第1期)
尾道工場、緑化モデル工場として「広島県知事賞」受賞
- 1998 「環境行動計画」を改訂
「タイヤLCA」手法を開発
国内全生産事業所で三島工場が初めて「ISO14001」認証取得
- 1999 国内全生産事業所で「ISO14001」認証取得完了
平塚製造所に「コージェネレーションシステム」を設置
- 2000 尾道工場、新城工場がエネルギー管理で「通産省表彰」受賞
環境保護への取組みを紹介する冊子「エコレポート」の発行開始
ヨコハマタイヤ・フィリピン「ISO14001」認証取得
- 2001 研究開発段階から有害化学物質を排除する「化学物質管理強化」を開始
三重工場にゴム臭気防止設備導入(第2期)
三島工場、ボイラー燃料を重油から都市ガスに転換
埋立廃棄物を2005年度末までにゼロにする「ゼロエミッション」活動開始(その後、2004年末までに目標を一年前倒す)
環境会計の公表開始(2000年度分より)
- 2002 三島工場「地域環境保全功労賞」受賞
YHアメリカ「ISO14001」認証取得
三島工場「3R推進協議会会長賞」受賞
- 2003 ヨコハマタイヤ・フィリピン「コージェネレーションシステム」を導入
新城工場「資源エネルギー庁長官賞」受賞

『環境報告書ガイドライン』準拠の状況

項目			参照ページ	
経営責任者緒言	重要	環境問題への認識	4	
		環境情報開示に関する基本姿勢	4	
		環境方針・目標	4	
		上記に関する社会に対しての誓約	4	
	望	経営責任者の署名	4	
基本的要件	重要	報告対象期間、発行日、次回発行予定	3	
		報告対象分野	3	
		作成部署および連絡先	40	
		コミュニケーション手段	別刷り	
	望	ホームページのアドレス	40	
事業概要等	重要	事業の具体的な内容	3	
		全体的な経営方針	5	
		本社の所在地	3	
		主要事業所の数と所在地・生産品目	32~36	
		従業員数	3、32~36	
		売上高	3	
	望	環境保全への取り組みの歴史	37	
経営方針・考え方	重要	環境保全に関する経営方針・考え方	5	
		制定時期、制定方法、位置づけ	5	
		方針の解説、説明	5	
	望	環境中長期目標	8	
		当期環境目標	8	
目標、計画および実績等の総括	重要	実績および結果に対する評価	8	
		事業内容、製品・サービスの特性に応じた課題	8、12~30	
		報告対象期間における特徴的な取組	12~30	
	望	前回の報告時と比べて追加・改善した取組等	12~30	
環境会計情報の総括	重要	集計範囲、対象期間等の基礎情報	9	
		環境保全コスト及び主な取組の内容	9	
		環境保全対策に係る効果	9	
		集計に採用した方法等の補足情報	9	
		環境省「ガイドライン」に準拠	9	
		全社的な構築及び運用状況	6~7	
環境マネジメントシステムの状況	重要	組織・体制の状況	6	
		ISO14001の認証取得状況、認証取得時期	3	
		環境保全に関する従業員教育等の実施状況	7	
		緊急事態の内容と緊急時対応の状況	6	
		環境影響の監視、測定の実施状況	10~16、32~36	
		監査基準、実施状況、結果及び対応方法等	7	
		環境マネジメントシステムの全体像を示すフロー図	6	
		技術、製品・サービスの環境適合設計の研究開発の状況	重要	環境適合設計の研究開発の状況
環境情報開示、環境コミュニケーションの状況	望	LCA手法を用いた研究開発の状況	21	
	重要	環境コミュニケーションの実施状況	29	
環境に関する規制遵守の状況	望	利害関係者とのコミュニケーション実施状況	29	
	重要	環境法規制とその対応状況	32~36	
環境に関する社会貢献活動の状況	重要	事業者又は従業員による環境に関する社会貢献活動の状況	29	
	望	加盟又は支援する環境保全に関する団体	31	
物質・エネルギー等のインプットに係る環境負荷の状況及びその低減対策	重要	環境負荷の全体像	10~11	
		主要な物質の定量的フロー図	10~11	
		総エネルギー消費量及びその低減対策	10~11、14	
		水利用量及びその低減対策	10~11、16	
事業エリアの上流での環境負荷の状況及びその低減対策	業態により重要	有害物質投入量及びその低減対策	15、32~36	
不要物等のアウトプットに係る環境負荷の状況及びその低減対策	重要	グリーン購入の状況	17	
		大気への排出	温室効果ガス排出量およびその低減対策	14
			PRTR対象物質排出量及びその低減対策	15、32~36
			排出抑制物質の排出濃度及びその低減対策	15、32~36
			騒音、振動の発生状況及びその低減対策	16
			悪臭の発生状況及びその低減対策	16
	水域・土壌への排出	PRTR対象物質排出量及びその低減対策	15、32~36	
		排水規制項目の排出濃度及びその低減対策	15、32~36	
	廃棄物等の排出	廃棄物等の総排出量及びその低減対策	12~13	
		再使用される循環資源の量及びその増大対策	12~13	
		再生利用される循環資源の量及びその増大対策	12~13	
		熱回収される循環資源の量及びその増大対策	12~13	
		焼却処理される廃棄物の量及びその低減対策	12~13	
		最終処分される廃棄物の量及びその低減対策	12~13	
有害廃棄物排出量及びその低減対策	15、32~36			
PRTR対象物質の廃棄物移動量及びその低減対策	15、32~36			

当エコレポートは、環境省の「環境報告書ガイドライン（2000年度版）」を参考に作成しました。



「エコレポート2002」のアンケート結果

横浜ゴムの環境への取り組みについて、多くの方々からご意見・ご要望をいただけるよう、昨年より本エコレポートにアンケート用紙を挟み込みました。マスコミや投資家の方々へ送付したほか、エコプロダクツ展をはじめとする催事での配付、顧客企業への配付などで合計約2000部となっています。またホームページに掲載している「環境保全への取り組み」にアンケート画面及び冊子請求画面を用意しました。寄せられたアンケートの回答は11件、冊子請求は316件でした。

寄せられたご意見

「環境への取り組みが企業価値の向上に繋がる工夫をご検討いただければと思います」

「環境コストは、この程度では評価のしようがない」

「活動内容について、どこの企業でも『報告書』という立場から、主観的な評価をしておられますが、消費者や取引先、官公庁などの立場からの評価も加えてみてはいかがでしょうか」

「技術面での解説が詳しく、理解を深めるのに参考になりました。欲を言えば、環境会計のところ、もう少し詳細内容があれば注力分野がわかり、取り組み姿勢の評価に結びつくのではないのでしょうか」

「汚染の予防、環境負荷物質の削減に対する源流工程での改善をTPM/ISO活動の面から紹介してほしい」

「読者層をどこに設定するかに関係しますが、データの数値表示、算定方法の注記等が不足しているように思います」

「一般読者向きとしてはこれでよいと思っていますが、専門家としてはデータを中心に情報不足との印象を持ちました。もちろん読者層が専門家に偏っている現状は問題と思っています」

「環境会計研究者の立場で申し上げますと、物量効果が増減率のみで示されるなど、物足りなさを感じます。環境効果指標の開発も進んでいます。もう一步のレベルアップが必要と思います」

「各工場の責任者がコメントしているなど、具体的なイメージがわく構成になっている」

「製造工程の図にも、廃棄物等の環境負荷を加えていただければと感じました」

「幅広い分野で着実に成果を残されてる」

「環境適合設計が抽象的です。これで御社の環境度が決まるのですから」

「企業として環境へいかに取り組むかという方針がよくみえる」

「御社の活動内容をいくつかの切り口から、わかりやすくまとめておられると思います」

「企業活動のさまざまな部門で真剣に取り組んでおられることが、よくわかりました」

「アンケートが記入しにくい」

「全体的に簡潔にまとめられているが、写真に工夫が必要」

「環境負荷の低減が率先して行われているが、削減量が少ない」

「環境行動指針が、具体的でわかりやすい」

お問い合わせ先

横浜ゴム株式会社
広報部

〒105-8685 東京都港区新橋5-36-11

電話 (03) 5400-4531

FAX (03) 5400-4570

<http://www.yrc.co.jp>

環境保護推進室

〒254-8601 神奈川県平塚市追分2番1号

電話 (0463) 35-9512

FAX (0463) 35-9544

<http://www.yrc.co.jp/env>

発行：2003年9月



古紙配合率100%再生紙を使用しています